日本実験動物技術者協会　東海支部会報

JAEAT

2007 年　1 号　（通算　27 号）

目次

1．　開催のご案内

（1）実験動物実技講習会 ・・・・・・・・・・・・ ・・・・・・・・・2

2．報告事項

（1）第 33 回日本実験動物技術者協会東海支部総会 ・・・・・・・・・2

（2）平成 19 年度　第 1 回役員会・第 41 回総会実行委員会・・・・・3

（3）平成 19 年度　第 2 回役員会・第 41 回総会実行委員会・・・・・3

（4）平成 19 年度　第 3 回役員会・第 41 回総会実行委員会・・・・・3

（5）第 41 回日本実験動物技術者協会総会（名古屋総会）・・・・・・3

3．その他

（1）年会費について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・7

1．開催のご案内

（1）平成 19 年度実験動物実技講習会

日時：10 月 20 日（土）　　9:30～17:00
　　（受付：9:00～9:30）
会場：名古屋市立大学（川澄キャンパス）
　　医学研究科　研究棟２階会議室２

　　名古屋市営地下鉄桜通線　桜山下車すぐ

講師：日本エスエルシー株式会社　藤田　芳顕先生
定員：15 名（先着順）
会費：会員　5,000 円　　非会員　6,500 円

小動物を用いた実技を中心とした講習会です。基本的な手技を取得したい方，２級試験受験前の再確認をしたい方など奮ってご参加ください。申し込みは同封の申し込み用紙に必要事項を記入し支部事務局まで郵送または FAX にてお申し込みください。E-mail でも受け付けます。
申込締切は 10 月 12 日（金）です。なお，締め切り日前でも定員に達した場合は申込みを締め切らせていただきます。不明な点は支部事務局までお問い合わせください。

2．報告事項

（1）第 33 回日本実験動物技術者協会東海支部総会

日時：平成 19 年４月 21 日（土）　　13:15～17:20
場所：名古屋大学医学部　基礎棟１Ｆ会議室
添付資料の通り承認されました。

（２）平成 19 年度　第 1 回役員会・第 41 回総会実行委員会

日時：平成 19 年４月 21 日（土）　　10:00～12:00
場所：名古屋大学医学部　基礎棟１Ｆ会議室
議題：第 33 回日本実験動物技術者協会東海支部総会について
　　第 41 回総会進捗状況
　　その他

（３）平成 19 年度　第２回役員会・第 41 回総会実行委員会

日時：平成 19 年５月 26 日（土）　　10:00～16:00
場所：名古屋市立大学
議題：第 41 回総会進捗状況

（４）平成 19 年度　第 3 回役員会・第 41 回総会実行委員会

日時：平成 19 年６月 28 日（木）　　14:00～20:30
場所：名古屋大学病院　会議室
議題：第 41 回総会進捗状況　（最終打ち合わせ）

（５）第 41 回日本実験動物技術者協会総会（名古屋総会）

日時：平成 19 年７月６日（金）～７日（土）
場所：名古屋市中小企業振興会館

東海支部会員皆様のおかげをもちまして，盛会裏に終了いたしました。
ありがとうございました。

大会長挨拶

「第 41 回日本実験動物技術者協会総会開催を終えて」

大会長　小木曽　昇（名古屋大学）

梅雨時期の７月６日（金）、７日（土）の２日間、第 41 回日本実験動物技術者協会総会を名古屋で開催してからはや２ヶ月少々過ぎました。まだまだ残務処理が残っておりますがもう少しで解放されるところです。思い起こせば、総会会場の決定までに半年ほど期日を要したことが準備の遅れの発端でもあり、昨年 10 月に京都で開催されました実技協設立４０周年を記念するビックイベントはかつてない盛況さであり第 41 回の準備期間も間もなく、周囲はその影響は多分あるのではないかと予想された方も多かったようです。また、数々の総会案内の文面には「元気な名古屋」、「エネルギッシュな名古屋」と参加の呼びかけを書いたものの、内心不安でいっぱいであったのは確かです。しかし、総会の準備までのスケジュールや事務処理等については、坂本前関西支部長（第 40 回京都総会会長）、池渕事務局長（現関西支部長）、中村北陸支部長（第 39 回金沢総会会長）のパワフルなアドバイザーのおかげで大会当日にこぎ着けることができました。梅雨時期でもあり出足は少々鈍いものと思いつつ、大会当日の参加者は当初予想の 400 名を遙かに超える 550 名に達し、器材展示関係に協賛いただきました各企業の方々を含めて 700 名をも超える参加者数で主催者側としては悲鳴を上げるほどでした。梅雨と言えども夜間に小雨が降る程度で幸いにも天候に恵まれ、名古屋独特の蒸し暑さは回避された快適な環境下で開催することができました。

今回の大きなテーマとして、昨今の実験動物に関わる法律改正や規制強化（動物輸入規制、外来生物法、感染症法、動物の愛護や管理に関する法律等）により、実験動物技術者としてその時代の医学・生物学研究に対する要求を柔軟に対応すべく、知識や技術力の向上をめざそうとして掲げさせていただき総会の企画・運営を行いました。

内外の特別講演、教育講演、シンポジウムにつきましても、各演者の先生ともこの様なテーマの趣旨に従った素晴らしいご講演が頂けました。大会の第 1 日目には、特別講演として前名古屋市東山動物園・伊藤嘉男先生に、「これからの動物園」と題し、紀元前から近代における動物園の歴史を始めとして、動物園の役割、従来からの動物園の再生を目指し、希少動物の繁殖計画や種の保存、現在多くの動物園で取り組んでいるエンリッチメント等々、東山動物園を例として興味あるご講演を拝聴できました。午後からは、名古屋記念講演として、実技協理事長や東海支部長として協会の発展に貢献されました藤田保健衛生大学疾患モデル教育研究センター長・髙橋久英先生に「朋に歩んだ 40 年－実験動

物の教育・研究・サービス－」と題してご講演していただきました。本講演では、先生が実験動物に関わり始めた学生時代から最近までの疾患モデル動物の育種学的な研究を紹介され、あらためて医学・創薬研究には動物実験を行うための基本的な動物飼育の環境整備、実験動物の重要性、さらに疾患モデル動物の大切さを再認識できました。また、各種疾患モデル動物の系統や野生動物の捕獲方法、木製飼育ケージ等々のプレゼンテーションは、大変懐かしく感じられた方も多いかと思います。

第 2 日目に名古屋大学大学院医学系研究科分子病原細菌学・耐性菌制御学講座教授の太田美智男先生には、「細菌の生き残り戦略と感染」の講演をお願いしました。ご講演の内容は、細菌学の歴史から臨床の院内感染に関わる病原性細菌等の概論と、先生のご研究でかつ最近のトピックでもあり、また動物飼育管理においても感染の原因として考えられているバイオフィルムについての形成や制御のメカニズムについて講演されました。今後、動物飼育管理における感染防御として方向性を見出せるような役立つ内容であったと思います。先生は、全国各地の病院で発生した院内感染対策に関する高第一人者であり、医学・生物系の各学会等にご講演されて超多忙であることも事前情報として知らされていたため、当然のことながら大学内においてもなかなかお会いできないこともあり、本総会の特別講演を依頼しても断られてしまうのではないかと思っていましたが、ご快諾いただいたときには安堵しました。また、午後から国立病院機構金沢医療センター・阿部康治先生に「データの信頼性保証と GLP」と題して講演をお願いしました。先生は、GLP 適合性調査を含めて全国各地の施設をご指導されており、その経験を元にして GLP の基礎的な概論から実例を含めてポイントを解説され、今後の GLP 適合性調査の対策としてとても参考になったかと思います。これらの講演以外には、いくつかのシンポジウムと教育セミナーを企画しました。第 39 回日本実験動物環境研究会との共催による「改定法制下における動物実験施設の管理運営を考える－実験動物の福祉向上に視野を当て－」、実技協環境モニタリング委員会による「環境モニタリングを考える－環境モニタリングの必要性について－」の２演題のシンポジウムと３題の教育セミナー（「遺伝子マッピングとその意義」、「モニタリングのための検査技術」、「塩酸ケタミン麻薬化への対応について」）等々、多くの聴衆や受講者を前に活発な議論や討論、質問がなされました。

大会初日の夕方には、親睦を図るため（どちらかと言えば疲れを癒す？）の懇親会に料理を含めて参加者皆さんに名古屋特産の味を知っていただこうと、何種類かの名古屋土産を展示し味覚クイズを行いました。しかし、時間の経過ともにアルコールの度合いも程々（味覚は大丈夫？）で回答している方を見ていますと思わず苦笑してしまいました。会場は参加者の見込みも少なく算出していたことから、参加制限をせざるを得ない状況も発生してしまい、また料理も追加する事態となり皆様に大変ご迷惑をおかけしたことをお詫びいたします。

器材展示については、想定よりも遙かに多くの各企業の協賛を得ることができたこと、総会受付やポスター会場を展示会場と同会場にしたこともあり、常

時人の絶えることなく盛況な雰囲気であり、出展者の方々も御多忙であったかと思います。これも日本実験動物器材協議会事務局諸氏の絶大なるご尽力によるものと大変感謝いたします。

最後に、大会期間が 2 日間とあっという間に過ぎてしまいましたが、企画・運営面におきまして種々の問題はありご迷惑をおかけする場面もありましたが、会期中発表と討論を通じて活発な知見の交流とともに、会員相互の情報や友情の交換・理解が図られたものと確信しています。この様に大きな成功を収めさせていただいたのも、講演やセミナー、シンポジウムを行っていただきました先生方をはじめとして、実験動物関連団体、協賛していただきました各企業だけでなく、大会準備および大会期間中、数多くのご協力やご支援によるものに他ならず、ここに感謝の意を捧げます。また、本大会の運営には東海支部幹事や実行委員だけでなく、関西支部、北陸支部の方々にもお手伝いいただきお礼を申し上げるだけでなく、関連支部との団結力もできたと思いますし、今後実技協東海支部がますます発展していくことを祈念しつつ筆をおきたいと存じます。

３．その他

（１）年会費について

本協会は会員の皆様の会費により運営されています。本年度の会費が未納の方は至急お振込みをお願いいたします。

年会費：6,000 円

振込先
名　　称：日本実験動物技術者協会
口　　座：00130-9-102291
取扱機関：落合郵便局

JAEAT Japanese Association for Experimental Animal Technologists TOUKAI-branch

＜東海支部事務局＞
〒501-6195　　岐阜県各務原市川島竹早町１
エーザイ㈱安全性研究所川島研究室内（担当：森　郁夫）
ＴＥＬ：　0586-89-4722　　ＦＡＸ：　0586-89-5482
e-mail：　i-mori@hhc.eisai.co.jp
HP：http://jaeat-tokai.hp.infoseek.co.jp/

2007 年　10 月　　No．27　　発行者：小木曽　昇
発行所：日本実験動物技術者協会東海支部